

## 評価結果概要表

### 【評価実施概要】

事業所名	認知症高齢者グループホーム わかば苑		
所在地	長門市三隅上5109-1		
電話番号	0837-42-0051	事業所番号	3578000188
法人名	特定非営利活動法人 裕心会		

訪問調査日	平成 20 年 7 月 10 日	評価確定日	平成 20 年 9 月 22 日
評価機関の名称及び所在地	特定非営利活動法人 やまぐち介護サービス評価調査ネットワーク 山口県山口市宮野上163-1-101		

### 【情報提供票より】

#### (1) 組織概要

開設年月日	平成 16 年 4 月 1 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員計	9 人
職員数	9 人	常勤 7 人 非常勤 2 人 (常勤換算 8 人)	

#### (2) 建物概要

建物構造	木 造り	
	1 階建ての	~ 1 階部分

#### (3) 利用料等 (介護保険自己負担分を除く)

家賃	月額 15,000 円	敷金	無	円
保証金	無	円	償却の有無	無
食費	朝食	300 円	昼食	400 円
	夕食	400 円	おやつ	0 円
その他の費用	月額 12,000 円			
	内訳 光熱水費			

#### (4) 利用者の概要 (7月10日現在)

利用者数	9 名		男性	1 名	女性	8 名
	要介護 1	4	要介護 4			
	要介護 2	2	要介護 5			
	要介護 3	3	要支援 2			
年齢	平均 77 歳	最低	67 歳	最高	89 歳	

#### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	医科 桑原医院 歯科
---------	---------------

### 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

#### (優れている点)

ホームでの食事は三食共に、利用者と職員が一緒になって買い物や調理、準備などの一連の作業をしておられ、出来た食事を共に楽しまれています。管理栄養士の資格がある職員が献立作成やカロリーチェックをされ、新鮮な食材の確保など、バランスの良い、安全な食事を提供されています。センター方式のアセスメント用紙を活用され、利用者の思いやできることの把握に努められ、無理のない範囲で行えるよう支援しておられ、利用者の生き生きした表情や生きがいにつながっています。

#### (特徴的な取組等)

20代から70代と年齢の幅が広い9名の職員は、チームワークが良く、利用者との関係も和やかで、家庭的な共同生活を営んでおられます。子どもを連れての勤務にも配慮や支援をしておられ、職員の親睦会のときには臨時的職員(地元の人)を頼んで、全職員が参加できるような体制を取られるなど、運営者は、職員が働きやすく、また、働きがいのある職場づくりに努力され、開設以来、職員の離職者はおられません。

### 【重点項目への取組状況】

#### (前回の評価結果に対するその後の取組状況)

外部評価の結果を会議の中で検討し、できるところから改善に取り組みられています。地域の人との日々の交流やボランティアの受け入れなどで、ホームを理解してもらえるよう取り組まれています。緊急時の対応については、看護師を中心に初期対応や応急手当の勉強をされています。

#### (今回の自己評価の取組状況)

運営者、管理者、看護師、計画作成担当者等で話し合って作成したものを、全職員にみてもらい、話し合い、職員の意見を採り入れて、再度、管理者がまとめられて評価を作成されています。評価することで意義を理解され、介護の振り返りの場として、一年間の反省として捉えておられます。

#### (運営推進会議の取組状況)

市高齢障害課職員、地域住民(2名)、民生委員、家族、管理者、職員等のメンバーで、2ヶ月に1回開催しておられます。評価結果の報告や利用者の状況を伝え、参加者からの質問を受けるなどされています。メンバーの一部は交代での参加とされています。

#### (家族との連携状況)

月1回は利用料の支払いのため家族の訪問があるほか、面会時や電話等で一人ひとりの暮らしぶりを伝えたり、毎月ホーム便りを送付されています。面会時や電話の他、定期的に意見や要望を家族から聞かれ、介護計画に採り入れたり、運営に反映されるなど連携を取られています。

#### (地域との連携状況)

自治会に加入され、夏祭り、ふれあい祭り、花火大会などに参加されています。散歩の途中で農作業をされている地域の人と会話したり、地域の「いきいきサロン」のメンバーがホームを訪問され、歌や踊りで利用者とお交流されたり、野菜や果物などを届けてくださったりされています。

## 評価結果

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<p>理念に基づく運営 1. 理念の共有</p>			
1 (1)	<p><b>地域密着型サービスとしての理念</b> 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている。</p>	<p>運営の方針の一つとして、地域との結びつきを重視することを明示し、日々、地域との係わりを持ちながらサービスの提供をしているが、地域密着型サービスとしての理念の見直しはしていない。</p>	<p>・地域密着型サービスとしての理念の見直し</p>
2 (2)	<p><b>理念の共有と日々の取り組み</b> 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。</p>	<p>「友情・信頼・尊敬・感謝・博愛」を理念とし、食堂に掲示し、ミーティング等で意識啓発するなど、全職員が理念や方針の実現に向けて前向きに取り組んでいる。</p>	
<p>2. 地域との支えあい</p>			
3 (7)	<p><b>地域とのつきあい</b> 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。</p>	<p>自治会に加入し、夏祭り、ふれあい祭り、花火大会などに参加している。散歩の途中で農作業をしている地域の人と会話したり、地域の「いきいきサロン」のメンバーが訪問し、歌や踊りで利用者と交流したり、野菜や果物を届けてくれたりしている。</p>	
<p>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</p>			
4 (9)	<p><b>評価の意義の理解と活用</b> 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。</p>	<p>前回の評価結果については、できるところから改善に取り組んでいる。自己評価は、運営者、看護師、管理者、計画作成担当者等で話し合って作成したものを全職員に見てもらい、話し合い、職員の意見を採り入れて、再度管理者がまとめて評価としている。評価することで意義を理解し、気づき、一年間の反省として捉え、サービスの質の向上に努めている。</p>	
5 (10)	<p><b>運営推進会議を活かした取り組み</b> 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービスに活かしている。</p>	<p>市高齢障害課職員、地域住民(2名)、民生委員、家族、管理者、職員等のメンバーで2ヶ月に1回開催している。評価結果の報告や利用者の状況等を伝え、参加者から質問を受けているが、活発な意見交換や活用まではしていない。メンバーの一部を交代での参加としている。</p>	<p>・メンバーの拡大の検討 ・運営推進会議の活用</p>
6 (11)	<p><b>市町との連携</b> 事業所は、市町担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町と共にサービスの質の向上に取り組んでいる。</p>	<p>常に市の担当者とは情報交換をし、市職員も運営推進会議以外にもホームを訪問するなど連携している。</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取 組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 理念を実践する為の体制			
7 (16)	<b>家族等への報告</b> 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている。	利用料は持参のため、月に1度は家族がホームを訪れている。毎月「ホーム便り」を送付したり、面会時や電話等で一人ひとりの暮らしぶりを伝えている。	
8 (18)	<b>運営に関する家族等意見の反映</b> 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させているとともに、相談や苦情を受け付ける窓口及び職員、第三者委員や外部機関を明示し、苦情処理の手続きを明確に定めている。	面会時や電話等で家族から気づき、意見、要望などを聞き、運営に反映させている。苦情相談窓口、受付担当者、外部機関を明示し、苦情処理手続きを定めている。第三者委員は選任していない。	・第三者委員の選任と明示
9 (20)	<b>柔軟な対応に向けた勤務調整</b> 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう夜間を含め必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている。	常勤7名、非常勤2名の職員を確保し、利用者や家族の状況の変化や要望に応じて勤務の調整に努めている。職員の急病や、急な休みのときは、職員の勤務交代や運営者、管理者で対応できるよう柔軟な体制をとっている。	
10 (21)	<b>職員の異動等による影響への配慮</b> 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、変わる場合は利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。	開設以来、職員の離職者はいない。運営者は働きやすい職場づくりに努め、親睦会のときには、臨時に職員をたのんで全職員が参加できるようにし、子供を連れての勤務にも配慮、支援し、職員の離職がないように取り組んでいる。	
5. 人材の育成と支援			
11 (22)	<b>職員を育てる取り組み</b> 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	職員の年齢が20代から70代と幅広く、相話しやすく働きやすい職場であり、経験年数に応じて段階的な外部研修への参加や、内部研修(毎月の勉強会)の機会を通じて、職員が育つよう取り組んでいる。	
12 (24)	<b>同業者との交流を通じた向上</b> 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	山口県宅老所・グループホーム連絡会への参加や、地域内の同業者(1施設)との情報交換や交流を通してサービスの質の向上に努めている。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取 組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<p>・安心と信頼に向けた関係づくりと支援 1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</p>			
13 (31)	<p><b>馴染みながらのサービス利用</b> 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。</p>	<p>入居前に、利用者や家族と面談し、相談しながら、見学してもらい、他の利用者と一緒にお茶を飲んでもらったりして、徐々に馴染めるようにしている。</p>	
<p>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</p>			
14 (32)	<p><b>本人と共に過ごし支えあう関係</b> 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。</p>	<p>調理や食事、後片付け、掃除、野菜づくりなど、職員と利用者が話し合いながら行い、一日を一緒に過ごす中で、利用者から教わることもあり、一方的な介護にならないように配慮している。</p>	
<p>・その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント 1. 一人ひとりの把握</p>			
15 (38)	<p><b>思いや意向の把握</b> 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。</p>	<p>センター方式のアセスメント用紙の活用や、日々の何気ない会話や、その都度、その場面で利用者の思いをさりげなく聞きとり、ケア記録に残し、把握に努めている。困難な場合は家族から情報を得るなどして本人本位に検討している。</p>	
<p>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</p>			
16 (41)	<p><b>チームで作る利用者本位の介護計画</b> 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。</p>	<p>月一回の処遇会議で、アセスメント用紙から把握した利用者の意向や、家族からの意見を参考にして全職員で話し合い、計画作成担当者が介護計画を作成している。</p>	
17 (42)	<p><b>現状に即した介護計画の見直し</b> 介護計画の期間に応じて見直しを行なうとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。</p>	<p>3ヶ月に1回モニタリングをし、6ヶ月に1回の見直しを行うとともに、状況に変化が生じた場合は、その都度話し合って見直している。</p>	
<p>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</p>			
18 (44)	<p><b>事業所の多機能性を活かした支援</b> 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。</p>	<p>受診の付き添いと送迎の支援をしている。</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取 組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
19 (49)	<b>かかりつけ医の受診支援</b> 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	利用者のかかりつけ医を確認し、希望に応じて適切な医療が受けられるよう支援している。かかりつけ医への受診は家族が付き添っているが、看護師が医師に情報を伝えるなど、協力医とも連携を密にしている。	
20 (53)	<b>重度化や終末期に向けた方針の共有</b> 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。	入居契約時に、重度化や終末期に向けた対応について口頭で説明している。現時点では終末期への対応はしていないが、重度化した場合は、家族と話し合い、かかりつけ医と相談し対応を決める。指針は定めていない。	・重度化や終末期に向けた指針の整備
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 1. その人らしい暮らしの支援 (1) 一人ひとりの尊重			
21 (56)	<b>プライバシーの確保の徹底</b> 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない。	日々の介護の中で言葉かけが気になったときには、職員同士で注意しあったり、会議において話題にしなが、誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけをしないよう努めている。記録等の取り扱いには特に気をつけている。	
22 (59)	<b>日々のその人らしい暮らし</b> 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	食事や入浴などの時間は概ね決まっているが、起床や朝食等、日々、その時々で利用者に合わせた支援をし、朝食後の掃除や花の水やり、散歩、一人ひとりの思いや状態を大切に、その人らしい暮らしができるよう取り組んでいる。	
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
23 (61)	<b>食事を楽しむことのできる支援</b> 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	三食ともホームで作っており、買い物、準備、後片付けなどを利用者と共にし、同じ食事を一緒に食べている。	
24 (64)	<b>入浴を楽しむことができる支援</b> 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しむように支援している。	入浴は毎日可能で、一人ひとりの希望やタイミングを合わせて、概ね15時～17時ごろに行なわれている。利用者は毎日入浴を楽しみにしている。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取 組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
25 (66)	<b>役割、楽しみごと、気晴らしの支援</b> 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした活躍できる場面づくり、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	テレビ視聴、読書、歌、体操、縫い物、編み物などの楽しみごとや、花の水やり、食事の準備、後片付け、畑づくり、草取り、掃除など活躍できる場面づくりをしている。ボランティアによる演芸や歌の訪問もあり、気晴らしや生きがいに繋がるよう支援している。	
26 (68)	<b>日常的な外出支援</b> 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	散歩や買い物など、一人ひとりの希望にそって外出の支援をしている。月1回のドライブや外食など、戸外に出かけ楽しめるよう支援している。	
(4)安心と安全を支える支援			
27 (74)	<b>身体拘束をしないケアの実践</b> 運営者及び全ての職員が、「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」及び言葉や薬による拘束(スピーチロックやドラッグロック)を正しく理解しており、抑制や拘束のないケアに取り組んでいる。	身体拘束(言葉、薬による拘束を含む)につながる行為をしないよう、ミーティング等で話し合い、抑制や拘束のないケアに取り組んでいる。	
28 (75)	<b>鍵をかけないケアの実践</b> 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	日中は鍵をかけていない。利用者の外出を察知したら職員がさりげなくついていき、様子を見ながら声かけをしたり、一緒に散歩したりするなど、自由に外に出られるよう支援している。	
29 (78)	<b>事故防止のための取り組み</b> 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	事故・ヒヤリはっと報告書に記録し、対策を検討して再発防止に努めている。転倒など一人ひとりの状態を把握し、事故につながらないよう介護計画に取り入れて、事故防止に取り組んでいる。	
30 (79)	<b>急変や事故発生時の備え</b> 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。	緊急時対応マニュアルを作成し、看護師を中心に初期対応や応急手当の勉強会をしているが、定期的な訓練はしていない。	・定期的な訓練の実施
31 (81)	<b>災害対策</b> 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	年1回、消防署の協力で火災避難訓練を実施している。地域の人に働きかけをし、地域の消防団の協力が得られる様になっている。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取 組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
32 (84)	<b>服薬支援</b> 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めているとともに、必要な情報は医師や薬剤師にフィードバックしている。	薬の情報(目的・副作用・用法等)をファイルし、職員はいつでも確認できるようにしている。服薬はその都度手渡しし、確認している。必要な情報は医師にフィードバックしている。	
33 (86)	<b>口腔内の清潔保持</b> 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力量に応じた支援をしているとともに、歯ブラシや義歯などの清掃、保管について支援している。	毎食後、職員の声かけや見守りで一人ひとりに応じた口腔ケアの支援をしている。洗面台は各居室にあり、歯ブラシや義歯の清掃保管については、利用者の状態に合わせて支援している。	
34 (87)	<b>栄養摂取や水分確保の支援</b> 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	食事・水分摂取量を記録し把握して、一人ひとりに合わせた支援をしている。管理栄養士の資格のある職員がおり、献立作成やカロリーチェックをし、バランスの良い食事を提供している。	
35 (88)	<b>感染症予防</b> 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)。	マニュアルがあり、予防を実行している。看護師が助言し、新鮮な食材の確保や、消毒など常に気をつけている。	
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1)居心地のよい環境づくり			
36 (91)	<b>居心地のよい共用空間づくり</b> 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮するとともに、生活感や季節感など五感に働きかける様々な刺激を採り入れて、居心地よく・能動的に過ごせるような工夫をしている。	共用空間の温度や明るさは適度であり、換気にも配慮している。畳の部屋があり、昼寝やテレビ視聴など、利用者が集まって過ごすお気に入りの部屋となっている。行事や日常の写真の掲示物を飾り、季節の花を生け、調理の音や匂いなど、季節感や生活感が感じられるよう支援している。	
37 (93)	<b>居心地よく過ごせる居室の配慮</b> 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	写真や本、テレビ、使い慣れた家具など持ち込み、本人が居心地良く落ち着いて過ごせるよう支援している。	

# 自己評価書

## 【ホームの概要】

事業所名	特定非営利活動法人 裕心会
所在地	〒759-3801 長門市三隅上5109-1
電話番号	0837-42-0051
開設年月日	平成 16 年 4 月 1 日

## 【サービスの特徴】

入居者の方が、家庭的な穏やかな雰囲気の中で、おひとりお一人が主体的に个性的に生活できるようにサポートしていきたい。

## 【実施ユニットの概要】 (6月19日現在)

ユニットの名称	認知症高齢者 グループホーム わかば苑		
ユニットの定員	9 名		
ユニットの利用者数	9 名	男性 1 名	女性 8 名
	要介護 1	4	要介護 4
	要介護 2	2	要介護 5
	要介護 3	3	要支援 2
年齢構成	平均 77 歳	最低 67 歳	最高 89 歳

## 【自己評価の実施体制】

実施方法	管理者を中心に、他職員と相談・確認しながら記入した。
評価確定日	平成 20 年 6 月 19 日



## 自己評価票

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取 組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<p>理念に基づく運営</p> <p>1. 理念の共有</p>			
1 (1)	<p><b>地域密着型サービスとしての理念</b> 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている。</p>		<p>在宅時代の住民同士の付き合いの継続、家族と協力して帰宅させ、地域行事への参加</p> <p>個々のサービスは勿論、地域の同世代の人達に苑への訪問をお願いしていきたい。</p>
2 (2)	<p><b>理念の共有と日々の取り組み</b> 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。</p>		<p>職員会議等で意見交換し、理念を共有している。</p>
3	<p><b>運営理念の明示</b> 管理者は、職員に対し、事業所の運営理念を明確に示している。</p>		<p>「友情・信頼・尊敬・感謝・博愛」を苑是としている。</p> <p>ご利用者への尊敬と優しさを最優先し、職員間ではお互いの信頼関係を基に業務に従事していきたい。</p>
4	<p><b>運営者や管理者の取り組み</b> 運営者や管理者は、それぞれの権限や責任を踏まえて、サービスの質の向上に向け、職員全員と共に熱意をもって取り組んでいる。</p>		<p>運営・管理については常に公開を原則とし、最良のサービスに努めている。</p>
5	<p><b>家族や地域への理念の浸透</b> 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる。</p>		<p>グループホームが施設でなく「家庭生活の延長線にある」事を常に、PRしている。</p> <p>地域住民との交流が不十分だと自覚している。</p>
<p>2. 地域との支えあい</p>			
6	<p><b>隣近所とのつきあい</b> 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄りしてもらえようような日常的な付き合いができるよう努めている。</p>		<p>顔見知りの方には、気軽に声かけし、立ち寄れる状況にはある。</p>
7 (3)	<p><b>地域とのつきあい</b> 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。</p>		<p>地域の催しに参加し、交流に努めている。</p>
8	<p><b>事業所の力を活かした地域貢献</b> 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。</p>		<p>現在は取り組んでいない</p> <p>努めていきたい</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
9	<b>評価の意義の理解と活用</b> 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	外部評価による改善点や指摘事項については、日々の業務や会議により論じ合い改善している	
10 (5)	<b>運営推進会議を活かした取り組み</b> 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービスに活かしている。	委員の皆さんにホームの意義、目的の理解を求めながら、住民からの意見を求めている段階。	委員の一部の方に2年に1回程度交代して頂き、GHの理解を広め(深め)、様々な意見を取り入れていきたい
11 (6)	<b>市町との連携</b> 事業所は、市町担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町と共にサービスの質の向上に取り組んでいる。	行政担当者は、足繁く苑を訪問し、苑のあり方を助言されたい(その事が地域密着の意義だと思う。)	現場(苑)と行政の連携がサービスの向上に繋がると感じている。
12	<b>権利擁護に関する制度の理解と活用</b> 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用するよう支援している。	該当する利用者の受け入れが現実化した場合には、対応できる心積もりはある、成年後見制度等々全てにおいて、全職員が理解しているとはいえない。	具体的研修等があれば、積極的に参加していきたい
13	<b>虐待の防止の徹底</b> 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	虐待は無い。	
4. 理念を実践するための体制			
14	<b>契約に関する説明と納得</b> 契約を結んだり解約したりする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	入居時に十分説明しているが、入居後も疑問点があれば質問して頂き、理解を深めるよう対応している。	
15	<b>運営に関する利用者意見の反映</b> 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	利用者の不満は処遇会議等で確認し合い、苦情窓口は重要事項説明書にも記し、玄関、廊下にも掲示している。また、ケアマネから必要に応じて家族と定期的に連絡をとりながら要望等あれば言っている。	苦情等あれば、謙虚に受け止め業務に活かしていきたい。
16 (7)	<b>家族等への報告</b> 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている。	毎月家族へ通信を送っており、個々の様子はケアマネからも報告している。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
17	<b>情報開示要求への対応</b> 利用者及び家族等からの情報開示の要求に応じている(開示情報の整理、開示の実務等)。		
18 (8)	<b>運営に関する家族等意見の反映</b> 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させているとともに、相談や苦情を受け付ける窓口及び職員、第三者委員や外部機関を明示し、苦情処理の手続きを明確に定めている。		
19	<b>運営に関する職員意見の反映</b> 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。		
20 (9)	<b>柔軟な対応に向けた勤務調整</b> 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、夜間を含め必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている。		
21 (10)	<b>職員の異動等による影響への配慮</b> 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。		
5. 人材の育成と支援			
22 (11)	<b>職員を育てる取り組み</b> 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。		今後も積極的に参加していきたい。
23	<b>職員配置への取り組み</b> 多様な資質(年代、性別、経験等)をもった職員を配置することにより、多様な利用者の暮らしに対応している。		
24 (12)	<b>同業者との交流を通じた向上</b> 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。		GH協議会や長門地域の施設看護師の集い等に参加し、意見交換等を行っている

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	<b>職員のストレス軽減に向けた取り組み</b> 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。		更なる改善に努めたい
26	<b>向上心を持って働き続けるための取り組み</b> 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている。		
27	<b>職員の業務に対する適切な評価</b> 運営者は、高い専門性やリスクを要求される管理者や職員の業務に対し、処遇等における適切な評価に努めている。		事業開始4年経過し運営の難しさも感じているが、処遇改善を今後の課題としたい
<b>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b> 1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
28	<b>初期に築く本人との信頼関係</b> 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている。		今後もより強い信頼関係が持てるよう努めていきたい
29	<b>初期に築く家族との信頼関係</b> 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている。		更なる要望があれば対応していきたい
30	<b>初期対応の見極めと支援</b> 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。		入居できる状況であれば対応して行くが、他のサービス利用も含めた対応はGH場合難しい
31 (13)	<b>馴染みながらのサービス利用</b> 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
32 (14)	<b>本人と共に過ごし支えあう関係</b> 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。		日常生活の中で、会話を多く持ち信頼関係を築いている。 (ご利用者には、理事長の理念である「友情・信頼・尊敬・感謝・博愛」を念頭に常に業務に携わっている)

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
33	<b>本人を共に支えあう家族との関係</b> 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。		
34	<b>本人と家族のよりよい関係に向けた支援</b> これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している。		
35	<b>馴染みの人や場との関係継続の支援</b> 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。		
36	<b>利用者同士の関係の支援</b> 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。		状況によって利用者同士が関わり合い支えあえる関係を築くよう努めたい
37	<b>関係を断ち切らない取り組み</b> サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。		関わりを必要とする家族があれば対応していく
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント 1. 一人ひとりの把握			
38 (15)	<b>思いや意向の把握</b> 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。		
39	<b>これまでの暮らしの把握</b> 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。		
40	<b>暮らしの現状の把握</b> 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
41 (16)	<b>チームで作る利用者本位の介護計画</b> 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	センター方式を使い、全職員と話し合いケアマネが介護計画を作成している	
42 (17)	<b>現状に即した介護計画の見直し</b> 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	毎月の処遇会議において、見直し等を行い、利用者の現状に応じた計画を作成している	
43	<b>個別の記録と実践への反映</b> 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	日々の様子はケース記録に記入している。全職員が情報交換し、共有しながら実践し、見直しに活かしている	
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
44 (18)	<b>事業所の多機能性を活かした支援</b> 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
45	<b>地域資源との協働</b> 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。	運営推進会議等で協力・支援を呼びかけているし、火災発生時の対策として消防署に依頼し利用者にお話をしていたり、事もある	
46	<b>事業所の地域への開放</b> 事業所の機能を、利用者のケアに配慮しつつ地域に開放している(認知症の理解や関わり方についての相談対応・教室の開催、家族・ボランティア等の見学・研修の受け入れ等)。	ご要望があればいつでも開放している	
47	<b>他のサービスの活用支援</b> 本人の意向や必要性に応じて、地域の他の介護支援専門員やサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている。		GH利用が難しい状況になった場合、家族の要望があれば他施設との連携をとりながら、支援していきたい

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
48	<b>地域包括支援センターとの協働</b> 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。		
49 (19)	<b>かかりつけ医の受診支援</b> 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。		
50	<b>認知症の専門医等の受診支援</b> 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。		
51	<b>看護職との協働</b> 利用者をよく知る看護職員(母体施設の看護師等)あるいは地域の看護職(かかりつけ医の看護職、保健センターの保険師等)と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。		
52	<b>早期退院に向けた医療機関との協働</b> 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。		
53 (20)	<b>重度化や終末期に向けた方針の共有</b> 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。		
54	<b>重度化や終末期に向けたチームでの支援</b> 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医等とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。		
55	<b>住み替え時の協働によるダメージの防止</b> 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<p>その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</p> <p>1. その人らしい暮らしの支援</p> <p>(1) 一人ひとりの尊重</p>			
56 (21)	<p><b>プライバシーの確保の徹底</b></p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない。</p>	全職員がプライバシーの保護に努めている	
57	<p><b>利用者の希望の表出や自己決定の支援</b></p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。</p>	利用者の希望は十分に聞き、個々の出来る力に合わせて自己決定できるように働きかけている	
58	<p><b>“できる力”を大切にされた家事への支援</b></p> <p>家事(調理、配膳、掃除、洗濯、持ち物の整理や補充、日用品や好みの物などの買い物等)は、利用者の“できる力”を大切にしながら支援している。</p>	利用者の出来る力、希望に添って支援している	
59 (22)	<p><b>日々のその人らしい暮らし</b></p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。</p>	その時々(日々)の利用者の気持ちをくみ取りながら声をかけをし、日々を過ごしていただいている	
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
60	<p><b>身だしなみやおしゃれの支援</b></p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。</p>	各々のライフスタイルに合った物を提供できるように支援している	
61 (23)	<p><b>食事を楽しむことのできる支援</b></p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。</p>	声かけをしながら、準備や片付け等もして頂き、個人の好みも把握している	
62	<p><b>本人の嗜好の支援</b></p> <p>本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて、日常的に楽しめるよう支援している。</p>	認知症の度合いにより、体調不良や食事摂取量に支障をきたす事もあるため、自由化する事は難しい面がある。但し、お茶は自由に飲めるようにしている	希望がある時には、状況により柔軟に対応できるように努めたい
63	<p><b>気持ちのよい排泄の支援</b></p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。</p>	トイレ誘導を時間をチェックしながら行っている	



項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
64 (24)	<b>入浴を楽しむことができる支援</b> 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	毎日入浴を行っており、皆さん入浴を楽しんでおられる(希望により、1日おきの方もあり…)		
65	<b>安眠休息の支援</b> 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり、眠れるよう支援している。	個人の希望に沿って支援している		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
66 (25)	<b>役割、楽しみごと、気晴らしの支援</b> 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした活躍できる場面づくり、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	ボランティアによる演芸等の受け入れや野菜作りや草取りなど、出来る範囲で支援している		
67	<b>お金の所持や使うことの支援</b> 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や状態に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	個々のADLや状態、希望に応じ、お金を所持して頂くか、苑で預かっている。		
68 (26)	<b>日常的な外出支援</b> 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	個々の希望に沿っての外出は職員数の面で難しい時があるが、散歩や買い物等、出来る範囲での努力はしている。月1回のドライブ、外食は行っている		今後も出来る範囲で対応していきたい
69	<b>普段行けない場所への外出支援</b> 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している。	家族と相談し、外出できる様に支援している		
70	<b>電話や手紙の支援</b> 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	利用者の希望に沿い、自由に利用できる。状況によっては代行している		
71	<b>家族や馴染みの人の訪問支援</b> 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。	いつでも気軽に訪問できるようにしている		
72	<b>家族の付き添いへの支援</b> 利用者や家族が家族の付き添いを希望したときは、居室への宿泊も含め適切に対応している。	希望があれば対応している		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
73	<b>家族が参加しやすい行事の実践</b> 年間の行事計画の中に、家族が参加しやすい行事を取り入れ、家族の参加を呼びかけている。	年に1回の花火大会への参加を呼びかけている	
(4)安心と安全を支える支援			
74 (27)	<b>身体拘束をしないケアの実践</b> 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」及び言葉や薬による拘束(スピーチロックやドラッグロック)を正しく理解しており、抑制や拘束のないケアに取り組んでいる。	抑制や拘束などはしていない	
75 (28)	<b>鍵をかけないケアの実践</b> 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	鍵はかけない	
76	<b>利用者の安全確認</b> 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。	勤務職員が常に見守りをしている	
77	<b>注意の必要な物品の保管・管理</b> 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。	注意の必要な物品は預かって、必要な時使用して頂いている	
78 (29)	<b>事故防止のための取り組み</b> 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	緊急時のマニュアルはあるが、職員の研修訓練が不十分である	リスクマネジメント、緊急時の対応の充実に図っていきたい
79 (30)	<b>急変や事故発生時の備え</b> 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。	同上	同上
80	<b>再発防止への取り組み</b> 緊急事態が発生した場合や、発生の可能性が見られた時には、事故報告書や”ヒヤリはっと報告書”等をまとめるとともに、発生防止のための改善策を講じている。	ヒヤリハット(事故)報告書に記入し、全職員が確認し防止の為に対策を話し合っている	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
81 (31)	<b>災害対策</b> 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	定期的に訓練を行っている。地域の協力を得られる様になっている		
82	<b>リスク対応に関する家族等との話し合い</b> 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている。	話し合い等で発生した問題点等は、ケアマネや職員がその都度家族に報告している		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
83	<b>体調変化の早期発見と対応</b> 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。	変化等を認めた時点で、早急に対応し家族へ連絡している		
84 (32)	<b>服薬支援</b> 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めているとともに、必要な情報は医師や薬剤師にフィードバックしている。	看護師が個々の服薬の一覧表を作成しており、確認しながら、必要に応じて医師に相談している		
85	<b>便秘の予防と対応</b> 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる。	毎日の排便チェックを行っており個々の状況に応じて、薬や水分量等で対応している		
86 (33)	<b>口腔内の清潔保持</b> 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしているとともに、歯ブラシや義歯などの清掃、保管について支援している。	毎食後、歯磨きとうがいをを行うよう声掛けを行っている		
87 (34)	<b>栄養摂取や水分確保の支援</b> 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	管理栄養士が栄養バランスの良い献立を立てており、必要に応じて管理栄養士に相談しながら個々の状態に合った献立に変更している		
88 (35)	<b>感染症予防</b> 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)。	マニュアルは作成している		研修等に参加し、職員間で情報交換し更に知識を高めていきたい
89	<b>食材の管理</b> 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。	新鮮な食材確保の為に2日に1回の買い物をしており、食前に毎回消毒を行っている		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取 組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1) 居心地のよい環境づくり			
90	<b>安心して出入りできる玄関まわりの工夫</b> 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	苑周りは広く、玄関はいつでも出入り自由になっている	
91 (36)	<b>居心地のよい共用空間づくり</b> 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮するとともに、生活感や季節感など五感に働きかける様々な刺激を採り入れて、居心地よく・能動的に過ごせるような工夫をしている。	共用の空間は明るい作りになっており、季節の花々を生けて季節を感じて頂いている。利用者の要望があればその都度出来る範囲で対応している	
92	<b>共用空間における一人ひとりの居場所づくり</b> 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	ホール・談話室・自室で自由に過ごして頂いている	
93 (37)	<b>居心地よく過ごせる居室の配慮</b> 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	利用者の希望に応じた家具等を使用して頂いている	
94	<b>換気・空調の配慮</b> 気になるにおいや空気よどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。	定期的に換気を行い、利用者のご希望を聞きながら温度調節を行っている	
95	<b>身体機能を活かした安全な環境づくり</b> 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活を送ることができるように工夫している。	手摺を設置しており、必要に応じて使用している	
96	<b>わかる力を活かした環境づくり</b> 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。	混乱などのある人は、自室の前に大きく名前を書いたり、目印をつけたりしている	
97	<b>建物の外周や空間の活用</b> 建物の外周やベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。	畑や花壇があり希望者は利用しており苑周りも広いため個々での散歩にも利用している	

項目		取り組みの成果 (該当する箇所を 印で囲むこと)	
. サービスの成果に関する項目			
98	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	<input type="checkbox"/> ほぼ全ての利用者の 利用者の1 / 3 くらいの	利用者の2 / 3 くらいの ほとんど掴んでいない
99	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある。	<input type="checkbox"/> 毎日ある たまにある	数日に1 回程度ある ほとんどない
100	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。	<input type="checkbox"/> ほぼ全ての利用者が 利用者の1 / 3 くらいが	利用者の2 / 3 くらいが ほとんどいない
101	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿が見られている。	ほぼ全ての利用者が 利用者の1 / 3 くらいが	<input type="checkbox"/> 利用者の2 / 3 くらいが ほとんどいない
102	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。	ほぼ全ての利用者が <input type="checkbox"/> 利用者の1 / 3 くらいが	利用者の2 / 3 くらいが ほとんどいない
103	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。	<input type="checkbox"/> ほぼ全ての利用者が 利用者の1 / 3 くらいが	利用者の2 / 3 くらいが ほとんどいない
104	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。	<input type="checkbox"/> ほぼ全ての利用者が 利用者の1 / 3 くらいが	利用者の2 / 3 くらいが ほとんどいない
105	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。	<input type="checkbox"/> ほぼ全ての家族等と 家族の1 / 3 くらいと	家族の2 / 3 くらいと ほとんどできていない
106	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。	ほぼ毎日のように <input type="checkbox"/> たまに	数日に1 回程度 ほとんどない
107	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている。	大いに増えている あまり増えていない	<input type="checkbox"/> 少しずつ増えている 全くいない
108	職員は、生き活きと働けている。	<input type="checkbox"/> ほぼ全ての職員が 職員の1 / 3 くらいが	職員の2 / 3 くらいが ほとんどいない
109	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="checkbox"/> ほぼ全ての利用者が 利用者の1 / 3 くらいが	利用者の2 / 3 くらいが ほとんどいない
110	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="checkbox"/> ほぼ全ての家族等が 家族等の1 / 3 くらいが	家族等の2 / 3 くらいが ほとんどできていない